



浦和レス*ローズ*(中庭)
夏みかん(校庭)

ボート部 関東大会優勝!! ~ 全国大会へ

ボート部は、9月に行われた県新人大会で、女子舵手つきクォドルブルが優勝、女子ダブルスカルが3位、女子シングルスカルが2位と4位に入賞しました。この結果、これらの種目で10/30(土)、31(日)に山梨県河口湖漕艇場で行われた令和3年度関東高等学校選抜ボート大会に出場し、女子舵手つきクォドルブルで、昨年に続き優勝を果たしました。また、シングルスカルで4位入賞を果たしました。大舞台で自分たちの力を出すことができました。応援、ご声援、ありがとうございました。この結果、優勝した舵手つきクォドルブルは3月に静岡県で行われる全国高等学校選抜ボート大会に出場することになりました。

今年もまだ、各部活動は例年通りとはなりませんが、制約もある中で活動し、様々な成果をあげています。大会結果など、生徒たちの活動について、詳しくは一女HPをぜひご覧ください。



競技かるた部 関東大会出場決定!

10/4(月)に埼玉県新人かるた大会関東大会出場者選考の部が行われ、200名を超える参加者の中、トーナメント5回戦、ベスト8までを決定しました。その中に、浦和一女競技かるた部の2年生、市野凜さんと佐藤天胡さんの二人が進出しました。二人はこの後、準々決勝戦以降のトーナメント戦に参加し、さらに11/23(火)に栃木県総合運動公園内武道場で行われる、第38回関東地区小倉百人一首かるた大会に埼玉県チームの一員として出場します。



即興型英語ディベート講習会

11/2(火)に、即興型英語ディベートの講習会を行いました。通常の準備型のディベートでは、事前に与えられたテーマについて入念な準備を行いますが、即興型のディベートでは、



対戦時にテーマが提示され、15分で準備し、ディベートに臨みます。昨年、今年オンラインでの実施となり、ジャッジの先生に勝敗の判定、講評をいただきました。11/14(日)には、オンラインで行われる首都圏公立高校交流大会に参加し、他校の生徒たちと対戦し、交流を深めます。

美術部・写真部 浦和伊勢丹屋上『デパそら』アートに参加！

浦和伊勢丹屋上で開催される『デパそら』に一女美術部・写真部が参加しました。『デパそら』は伊勢丹浦和店40周年を記念し、浦和への地元愛溢れる有志と伊勢丹がコラボしたプロジェクトです。

空に近い屋上にテントやバーベキュー、子供用サーキット施設等を設置し、みんなでアウトドア気分を楽しもう！という内容です。本プロジェクトに参加しているOGの直井さん、興津さんより、浦和にある高校としてぜひ参加してほしい、と美術部・写真部が依頼を受けました。



部員たちはパブリックアートの制作に参加しました。各自で空の写真を撮り、防水処理などを行い、「テープーピー」という木枠に通して飾り付け、完成！となります。OGのお二方、設置をありがとうございました！

美術部 イラストが振り込め詐欺防止チラシに採用！

浦和警察署からの依頼を受け、浦和一女美術部が振り込め詐欺犯罪防止チラシのイラストを描きました。イラストに採用されたのは2年生部長の大里萌華さんの作品です。多くの人に親しみを持ってもらえるよう、優しい雰囲気イラストになっています。



イラストを手掛けた大里さんは、

「振り込め詐欺被害に遭いそうなおばあさんを、周りの人の気づきや支えで被害から救う、というイメージで描きました。このチラシが振り込め詐欺防止活動の一環となることができれば嬉しいです」と言っていました。

演劇部 発表会（映像審査会）参加！

今年度はコロナ禍で地区秋季発表会、県中央発表会が中止となり、その代替として各校の演劇をビデオに撮って送る映像審査会となりました。一女演劇部は10/31（日）に教室を一部屋借りて演劇ステージを作り、上演撮影を行いました。教室内にパネルを入れパンチを敷きカーテンを閉めて暗くし、大道具も自分たちでアレンジして作成し、照明音響を入れて舞台を作りました。



上演作品は生徒創作「SAYA」です。観客なしの制約の多い中でしたが、できる限り良い作品になるように協力して作り上げました。来年度はぜひ多くの観客に観てもらえる状況になることを願っています。

生徒総会・討論会

写真は一昨年の討論会の様子です

11/11（木）に生徒総会、18（木）に討論会を行います。一女の討論会は、千名の全校生徒の前で自分の考えを述べる、またとない貴重な体験の場です。コロナ禍でオンライン実施が続きましたが、本来の全校討論会を経験している3年生がいるうちに、この文化を継承するため、学年単位で集まり、討論会を行うことにしました。テーマは、学校生活に関すること、社会全体に関することなど、毎年多様なテーマで行っています。生徒たちにとり、多様な価値観に触れ、認め合い、自ら考え発表する機会になっています。

